

篠山で貴重な植物の自生地、発見される！

最近、篠山市で貴重な植物の自生地が相次いで発見されました。ひとつはベニバナヤマシャクヤクで、もうひとつはクリンソウの大群生地です。ベニバナヤマシャクヤクは北海道から九州、サハリン、中国東北部、朝鮮半島に分布していますが、環境省レッドリスト2007に絶滅危惧Ⅱ類（VU）としてリストアップされていて、兵庫県では数ヶ所のみしか記録がありません。今回見つかった篠山市の集団は数百株があり、さらにはベニバナヤマシャクヤクの品種のケナシベニバナヤマシャクヤクも混生しており、全国的にも貴重な群落です。この場所には、ニホンジカは食べないマツカゼソウが多く見られることから、シカはベニバナヤマシャクヤクも好まないとされており、他の植物はシカに食べられて、ベニバナヤマシャクヤクの大群落ができたと考えられます。

クリンソウは北海道、本州、四国に分布する日本固有のサクラソウ科の植物です。環境省レッドリスト2007にはありませんが、兵庫県レッドデータブックには最も絶滅の危険の高いAランクに位置づけられており、これまでに県内では数ヶ所しか自生地が知られていません。クリンソウもまたシカに食べられにくい植物ということもあって、現地では4,000平方メートルに推定17万本という大群落になったと考えられます。2008年6月には地元の人たちによってクリンソウを守る会が結成され、保護活動を行っています。これら貴重な植物が現地で末永く生き残ってゆける環境を維持することが大切ですが、シカの食害で減っている植物のことも考えると複雑なものです。

（藤井俊夫：自然・環境再生研究部）



写真：上右・上左 ベニバナヤマシャクヤク（写真提供：太治 庄三氏）
写真：下 クリンソウ（写真提供：石田 莞爾氏）